

議会だより

No.165 (H31.2.6発行)

平成30年 第4回浦臼町議会定例会 一般質問

第4回定例会は、12月11日に開催され、7議員から一般質問がありましたので、内容を要約し報告します。



親しまれる議会だよりを目指します。

札幌線跡地利用及び保 全について

Q 質問

JR札幌線の廃線が20年5月連休後となり、廃線後は代替公共交通機関に転換される。鉄道用地の利用保全について住民との懇談が必要と思われるが町長の考えは。

A 町長答弁

JR北海道との協議もおおむね終了し、12月22日開催の札幌線沿線まちづくり検討会議で覚書の締結をすることになっていく。

レールや枕木をはじめ、全ての鉄道施設を撤去する予定であり、町政懇談会等意見を聞きながら進めていきたい。

Q 再質問

線路の跡地利用については。

A 町長再答弁

関係機関とも協議をしながら住民の意見も聞いて進めていきたい。



東藤議員

北海道胆振東部地震に おける検証

Q 質問

本町における被害の状況と、災害対策本部の時系列データを求める。

A 総務課長答弁

9月末には、今後の教訓とするために全職員にアンケート調査を実施し、11月20日には中空知定住自立圏の防災部会により5市5町の防災担当職員が時系列のデータ等を持ち寄り、意見交換等を行った。

Q 再質問

町内会長へ情報伝達を行い、町内会館を今後避難所として開放できないか。

また災害対策本部のマニュアル作成についての考えは。

A 町長答弁

現在、防災計画の中にマニュアルはないため、今後作成に向け検討する。



中山議員

Q 再々質問

ブラックアウトに備えた緊急発電対策として、今後町の所有の車両を電気自動車等へ更新することも必要と考えるが。

A 町長再答弁

電気自動車については積極的に協議をしていく。

ぼたんそば手打ち技術 継承館新設の考えは

Q 質問

浦臼町の特産品のぼたんそばは、現在友の会が積極的な活動を展開し、町の各イベントに欠かせない。しかし、高齢化が進み、若手の打ち手が少なくなり将来的に技術の伝承が危惧される。いつでも利用できる施設が必要では。

また、今年のぼたんそば祭りでは、そば打ち施設に対し保健所から新たな衛生指導があり、31年からは施設の改善が求められ、今後の開催に大きな問題を残すこととなっている。来年度以降のそば打ち会場に対する町の考えは。

A 総務課長答弁

既存の施設で許可を取得し

て運営ができないか等、次年度以降イベントが円滑に開催できるよう検討していく。

また、技術の伝承についても、早い段階から若手育成を進めていく状況にあることも承知しているため、手打ちそばの会と協議を行い、町としてできる支援を検討する。

Q 再質問

現在、農産物加工施設は築年数も古く、衛生上においても完備されていない。また、施設利用料も高く利用の足かせになっており、今後改善が求められてくる。

新たなそば打ち技術伝承館と農産物加工施設をあわせ持った施設の有効性についての考えは。

A 町長答弁

複合施設ができないか、真剣に検討していく。





柴田議員

行政区再編に向けた検討及び会議設立の考えはあるか

Q 質問

町政施行120年の節目となる来年に、メインとして取り組むべきと考えるが。

A 総務課長答弁

人口減少・少子高齢化の進展により、さまざまな組織、団体において、将来的な維持・存続に不安が生じている。

町内会ごとの世帯主の平均年齢は、60歳未満が20%、60歳代が60%、70歳代が20%であり、強く危惧するところ。

今後、再編協議に必要となるデータを集め、町全体で協議する場をできるだけ早く立ち上げることを検討したい。

ジビエ事業の見直しを考えるべきではないか

Q 質問

この事業はコンソーシアムにおける猟友会の理解と協力があつてこそその前進であり、行政の押しつけではないけない。コンソーシアムが円満に活動し、町おこしの事業として成功させるためにも、見直す必要があると考えるが。

A 産業振興課長答弁

本事業は、本町の事情を考慮し、特別に来年度予算に繰り越しをして実施するものであり、さらに先送りすることはできない。

これまで猟友会とは円滑に事業を推進するため協議を重ねているが、事業のすべてに理解をいただいている状況ではなく、現状は減量化施設を活用して、エゾシカ捕獲を推進することに理解と協力をいただいている。

コンソーシアムの中で施設運用や捕獲・運搬に関するマニュアル等を検討し、一体となって事業を推進したい。

平成29年度グラウンドデザイン事業の策定業務委託報告書が10月になって初めて議会に説明されたが、当事業の今後について

Q 質問

①平成30年度コンサルとの委託契約2400万円の内容の説明を求める。
②今後具体的にどのような展開、発展していくのか。
③ワインの郷プロジェクト全体構想策定支援業務は、現在どのような扱いか。
④検討会議200万円の内容の説明を求める。

A 産業振興課長答弁

①グラウンドデザインに基づき農業振興と観光振興に関わる具体的な展開を図ることを目的としている。

農産物等の試験販売や、魅力ある資源と農業を組み合わせさせた着地型体験観光の企画、試験的事業の実施を図りつつ、道の駅周辺の再整備構想を作成する。また、これらの事業を進める運営組織の構築に向けた検討や町民を対象としたフォーラムの開催及び検討委

員会、推進委員会の運営支援などである。
②各委員会で検討し作成する道の駅周辺の再整備構想をベースに、実施に向けた事業計画を作成・推進するとともに、農畜産物と豊かな自然環境を組み合わせた体験観光などを展開し、町の魅力を発信しながら、地域産業の活性化につなげるよう進めていきたい。
③平成30年度の委託業務の中には含まれていない。
平成29年度の検討進捗状況を踏まえ、基本計画まで策定し、これ以上は民間と行政との協議により進めていく事項ということで、一旦解散している。
④推進協議会とグラウンドデザインの検討委員会の二つの委員会が設立されているため、運営等に係る助言等の支援業務で計上している。



議会を傍聴してみませんか？

- 町議会の定例会は年4回（3・6・9・12月）開きます。
 - 町議会の臨時会は、必要に応じて随時開きます。
 - 難しい手続き不要！名簿に記入するだけで傍聴できます。
- お気軽にお越しください。



平成30年度第4回定例会は11名と、浦臼小学校・浦臼中学校の皆さんが傍聴されました。
☆ありがとうございました☆

町政はあなたのために。



牧島議員

ジビエの推進について

Q 質問

9月定例会ではコストスタ
ディ・分析を通して、当初か
らの赤字が明確となった。ジ
ビエカーについても予算を大
幅に上回る。この間の取組に
ついて問う。

- ①食肉加工施設調査設計業務の仕上がりは。
- ②施設の設定場所についての議論と結果は。
- ③地元猟友会との議論と結果は。

A 産業振興課長答弁

①施設は、木造平屋建て、延べ面積約200㎡、事業運営に必要な設備を備えた設計となっている。

減量化施設は、97㎡のD型ハウス2棟、カスケードガレージ1棟、外周を脱着式のパネルフェンスで囲う。

②地元と協議を4回行い、協

定事項などについて意見をいただいている。

③コンソーシアムの中で総合的に協力をいただけるよう協議をしている。

Q 再質問

当初、31年10月の事業開始となっているが、道や国の地方創生関連での事業を地方に時間のない中で要求しているところに問題がある。

地域・猟友会は何が問題で、何がクリアされなければならぬのかが伝わってこない。

A 産業振興課長再答弁

地域からは、路肩の草刈りをして欲しい、二部高台線の見通しをよくするための除排雪、山5号線の砂利道の改良を進めて欲しいとの話が出ている。猟友会からは独自の加工施設が要望されているが、優先順位として加工施設が安定的に運営した後に検討していきたい。

また、買い取り制度の判断運用ルール等を今後丁寧に説明していく。

Q 再々質問

道や振興局に時間のない中で言われ、地元が混乱している。中央官庁へ行っても、

もう一、二年の遅らせることは当然ではないか。

A 町長答弁

1月中には農水省へ出向き、話をしていきたい。

本町所有の使われていない資産の解体を

Q 質問

旧町道、ポンプ施設、旧焼却場等の早々の解体が適当と考えるが。

A 建設課長答弁

旧町道として残っているものは2路線3カ所あり、そのうち国道275号線、神内フアームを結ぶ町道は西空知広域水道企業団の浦臼配水池施設があるため、管理道路として利用している。

樺戸台地線にある2カ所は土地の有効利用もなく、側溝流末以外の維持管理していない。原野化するならば、排水施設及び舗装版の撤去を検討したい。

公営住宅の上下水用ポンプは、ひばり団地建て替え事業の中で31年度に、ほか中央団地、旧晩生内地区簡易水道施設は、早ければ来年度中に順

次取り壊す計画。

地力増進施設内の焼却施設は、高額な解体経費がかかり、対象となる補助金がないため、有利な財源が確保できるまで保留している。



静山議員

BCPP対策について

Q 質問

BCPPとは、自然災害、事故、大停電、テロ、インフルエンザ感染などの緊急事態を生き抜く事業継続計画を言い、被害を早急に復旧させるためのマニュアルである。

町のBCPP対策の考え、また町内企業へのアドバイス、連携についての考えは。

A 総務課長答弁

自治体は災害応急対策や災害からの復旧・復興対策の主体として重要な役割を担うことになる。

また、非常事態でも優先的

に実施すべき業務を的確に行えるよう業務の継続を確保しておくことは重要である。

本町ではBCPPを策定してないため、災害時に優先的に行う作業の整理、BCPPに盛り込む具体的な業務の洗い出しを進め策定作りに努めた

また、町内企業においても、BCPPの策定は重要と認識していて、策定の啓発、アドバイスや連携に取り組みたい。

無料Wi-Fiの整備は

Q 質問

近年、インターネット環境は家の中だけではなく、いろいろな場所様々な情報をリアルタイムで入手できる環境づくりが求められている。

町としても、インターネットへのアクセス環境、無料Wi-Fiの整備をすることが重要であると思うが。

A 総務課長答弁

現在、町内で無料Wi-Fiのサービスは道の駅のみで行っている。今後、観光客や海外からのインバウンドの増加も予想されることから、今後の

整備について検討をしたい。
また、鶴沼公園キャンプ場での設置は必要ではないかという意見も出ているため、見きわめて設置をしたいと考えている。

特色ある学校づくり

Q 質問

学習指導要領の中で、「各学校が創意工夫を生かし、特色ある教育、特色ある学校づくりを進めること」とある。

本町の就学援助制度、高等学校通学等支援助成、給食費の無料化など色々な施策の評価をどう捉えているか。また、これを踏まえたキャリア教育についてはどう進めているか。

A 教育長答弁

就学援助助成制度、通学等支援助成金交付金事業及び学校給食費助成金交付金事業には大変好評を得ている、義務教育課程における保護者負担の軽減を図り、子育てに優しい環境づくりに繋がっていると思っている。

キャリア教育は各学校においての取組であり、キャリア教育全体計画目標を設定し、

児童生徒みずから考え、発表する場を設け、論議しながら結果に導くという事業展開となるよう、教師間で共通した認識のもと授業を行っている。教育委員会としてはキャリア教育を支援することで、まちづくりは人づくりにあることを基本姿勢として、学校、家庭、地域、行政がそれぞれの役割を果たし、子供たちがたくましく生き抜く力を育成することを目指している。



札沼線廃止後の交通体系とまちづくりについて

Q 質問

JR札沼線の廃線が確定したが、利用者のアンケート調査などを行い、浦臼町全体の交通体系の素案を地域住民を主体としてつくり上げることが必要。浦臼町の将来をみながら考えるよい機会では。①浦臼〱月形間の代替バスの4月から前倒し運行はあり得るのか。月形発着のバスとの連携は図られているか。②町営バスの土日運行、浦臼〱美唄線の新設は。③駅前の再開発計画は。④町政懇談会や意見交換会を行う予定はあるか。

A 総務課長答弁

①廃線日によっては前倒し運行もあり得ると考えている。代替バスは浦臼〱当別間を乗りかえなしの1路線という案



折坂議員

を3町で協議している。
②JRと協議し支援していただく予定。
③駅前の1帯を整備する。中身については町民の意見も聞きたいが、交流スペース機能を有する複合施設を考えている。

Q 再質問

町営バス、乗合タクシーの土日運行は町が実施できる施策。JRの支援を待たず先行して体制を整え、試験運行を実施してほしい。
駅前開発は総合的な町づくりにして話し合う必要があるのでは。

A 町長答弁

土日の前倒し運行はハードルは高いが検討する。
駅前については、住民の意見を聞きながら一番良い形を出していきたい。

害獣駆除とジビエ事業の広域展開の矛盾

Q 質問

浦臼猟友会との協議がかみ合わず、施設建設予定地の地元住民との合意もないままジビエ事業を強行するのはどう

なのか。本町の農業被害を食いとめるのが事業の目的ならば、現場のハンターの声をもっと吸い上げては。
①シカ駆除に対する浦臼猟友会への助成金と町独自の上乗せ分はいくらで、他市町村に比べて手厚いか。
②道職員も交えたコンソーシアムの協議が必要では。
③ハンターの技術向上として射撃場を貸し切り、町外のハンターが無料で射撃練習をしたことは浦臼町の害獣駆除に関係はあるのか。

④他町の駆除シカの運搬は町職員が行うのか。ハンターが浦臼町まで持ってくるの見込んでいるのか。

⑤深川市の減量化施設は近隣のシカを受け入れるのか。

A 産業振興課長答弁

①道から補助金7千円に町上乗せ額千円。決して手厚いとは言えない。来年度に向けて支援の拡大を検討する。
②できるだけ早く会議を開催したい。

③ライフル射撃場を活用し、中空知圏域及び近隣市町の猟友会を対象として1日無料開放し、本事業概要を説明し、

協力依頼をした。

④近隣市町からの直接搬入は各ハンターの判断。事業で導入する車両の運用は株式会社アイマトンが行う。

⑤深川市は中山間事業の取り組みとして運用するので近隣からの受け入れはしない。

食育推進計画の策定を望む

Q 質問

経済発展が最優先され、食の安全性が脅かされている。市民の健康を守るため、関係機関の連携を確固たるものにする必要がある。

食育推進計画の中で関係機関の連携を位置づけて、子供たちが豊かな食生活を送るための教育や環境整備を行ってほしい。学校給食では地元農産物の活用、食文化の継承や食品の安全性についての情報共有を。

A 産業振興課長答弁

食生活の基本となる家庭での取り組みと、学校や地域住民、ボランティア団体、生産者などが情報を共有し、相互に連携・補完しながら取り組む

む体制を整え、食育の推進に努めていく。

食育推進計画の策定もできる限り早期に策定できるように準備する。

(この後、教育長答弁あり)



野崎議員

砂川市立病院行乗り合いタクシーについて

Q 質問

三回目の質問となるが、進捗状況は。

A 町長答弁

タクシー業者に見積もりを求めたところ、一日一往復で670万円、一日二回だと倍となる。他に見舞いなどのサービスも入れると非常に厳しく、砂川市立病院だけに特化した住民サービスは難しいが今後とも議論していく。

Q 再質問

高齢者が診察に行く際にかかる大きな労力、高額な金銭負担などが、住民流出の原因になっているのではないか。

A 町長再答弁

子育て支援は一定のレベルに到達した。今後目を向けるのは高齢化、福祉対策との思いで検討した。違う形の支援

策がないのか議論していきたい。

Q 再々質問

JRの関係で美唄までの乗り合いタクシーの話が出て来たが、砂川駅までのタクシーならば砂川市立にも寄れるのではないか。利用者に応分の負担を求めれば町の試算した金額にはならないのでは。

A 町長再々答弁

なんとか実現出来ないか検討しながら議会と協議したい。

120周年記念事業について

Q 質問

明治32年7月15日に月形村より分村し、今年120周年を迎えるが、記念事業は予定しているか。

A 町長答弁

記念行事を開催する予定であり、全町民で祝いたいと考えている。

記念植樹など記念事業を考えており、新年度予算の時に具体的に話を出来ると思う。

定例会・臨時会の議決結果、一般質問通告、会議録を公開しています。



←公式HPでこのマークを見つけて下さい。

(<http://www.town.urausu.hokkaido.jp>)

平成29年度一般会計・特別会計 決算審査特別委員会 質疑要約

平成29年度各会計決算の認定は決算審査特別委員会に付託され、10月31日、11月1日の2日間で審査を行いました。委員会中で出された質問を一部要約して報告します。

定住促進事業について

Q 定住促進事業は、本町への移住・定住の促進が目的であるが、それに対するPRが少ないのではないかと。地理的要因や少ない雇用の場などがあるため、住宅施策だけではなく様々な面から移住・定住に結びつける対策が必要と考えている。

〈総務課長〉

ジビエ事業の業務委託について

Q 29年度の報告書の中で、広域連携や補助金の統一性を考えることとなっているが、その協議はされたのか。また、業者選定に問題はないか。

A 定住自立圏の広域連携で補助金制度、猟友会やハンターの広域的問題など、勉強会を通じ協議を重ねているが、成果的に不十分な部分は反省するところ。

入札業者選定については、指名委員会で5社を選定し、適正に落札している。

〈産業振興課長〉

マラニックについて

Q 支出の中で謝礼、交流会費が大きい支出額となっているが、その内容と、マラニックの経済効果は。

A おもてなしポイントの参加者に対する謝礼と併せて、試飲・試食用のワインや牛肉等の材料費も計上している。交流会は多くの参加者にマラニックを通じて、浦臼の自然を体験し、町民とコミュニケーションを図るために会費を安く設定した。そのため、総体的に経費が多くなったので、30年から会費を上げている。イベント中、ワインの販売や、農家によっては米やイモなど販売されていて、農産物のPR効果はあると考えている。

〈産業振興課長〉

産業観光推進ブランドデザインについて

Q グランドデザインの成果と、ワインの郷構想の現状はどうなっているのか。

A 29年度にブランドデザイン基本構想を作成した。事業計画としては、31年度までの3年間となり、交付金が得られなくなっても、それ以降に必要なものがあれば引き続き検討を進めていく。

ワインの郷プロジェクトは基本計画策定は完了し、現在は民間企業と町との間で協議内容の交渉段階となっている。

〈産業振興課長〉

決算審査特別委員会報告

10月31日・11月1日の2日間、慎重審議を重ね、平成29年度浦臼町各会計歳入歳出決算について原案のとおり認定すべきものと決定した。

平成29年度の一般会計決算状況は、歳入総額3647百万円、歳出総額3574百万円となった。歳出では、認定こども園建設事業、防災倉庫建設事業など、普通建設事業が集中したことから、前年度に比べ11・0%増となった。歳入は、町税、地方交付税、国庫支出金が減額したものの、各種交付金、道支出金、寄付金が増額し、前年度比10・6%増となった。

財政状況では、実質公債費比率が5・2%改善の1・3%となり、ここ数年の繰上げ償還や有利な起債の活用などで財政健全化の取組の成果が見られた。

〈小松委員長〉

職員の時間外労働とスキルアップについて

Q 長時間残業が多い課が見受けられるが、職員の増員などの考えはあるか。また、職員研修や派遣など行う考えは。

A 業務の軽減を図るよう、適正人員を図っていききたい。

振興局や道職員との職員交代交流の制度なども視野に、若手職員の成長育成を検討したい。

〈副町長〉

PR事業委託について

Q 臼子ねえさんの活動内容と費用対効果について。

A 29年度は13のイベントに参加した。参加依頼を受けたら、イベント情報をお願い、町と相談してPRに繋がるところへ参加している。

〈産業振興課長〉

平成29年度浦臼町各会計決算を認定

(単位：円)

区分 会計名	決算額		差引額	翌年度へ繰り 越すべき財源	実質収支額	
	歳入	歳出				
一般会計	3,647,225,617	3,574,615,215	72,610,402	5,777,000	66,833,402	
特別会計	国民健康保険	223,273,597	221,078,461	2,195,136	0	2,195,136
	後期高齢者医療	39,370,495	38,923,393	447,102	0	447,102
	下水道事業	74,888,177	73,315,647	1,572,530	562,000	1,010,530

審議された事件と結果

条例等の審議と結果

◆浦臼町長等の給与等に関する条例の一部を改正する条例について —可決—
民間の給与水準に準拠し、期末手当の支給率を改正するため

◆職員の給与に関する条例の一部を改正する条例について —可決—
平成30年人事院勧告により給与月額・手当等を改正するため

◆浦臼町議会議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例について —可決—
民間の給与水準に準拠し、期末手当の支給率を改正するため

◆浦臼町議会委員会条例の一部を改正する条例について —可決—
2つある委員会を1つの委員会に統合し、委員会活動の充実と効率化を図るため

◎人権擁護委員の推薦につき意見を求めることについて
任期満了により、次の者を適任と認め答申しました。
・土屋 慎一 氏



◎平成30年度予算の補正されたもの

会計名 (補正番号)	補正後の予算額 (補正額)	補正された主なもの
一般会計 (第5号)	34億5557万3000円 (2934万5000円)	ふるさと納税記念品 2799万2000円 雪害機械購入費 △4333万1000円 基金積立金 3500万円
特別会計	国民健康保険 (第1号)	一般職給料 1万2000円 職員手当等 4万2000円
	後期高齢者医療 (第1号)	保険料等負担金 370万円 職員手当等 1万8000円

◎平成30年度予算の補正されたもの（専決事項）

会計名 (補正番号)	補正後の予算額 (補正額)	補正された主なもの
一般会計 (第4号)	34億2622万8000円 (183万5000円)	災害復旧費 183万5000円

自治功労者表彰

空知町村議会議長会から、長きにわたり地方自治の振興や町政発展に貢献された議員に表彰状が授与され、第4回定例会開会前に伝達されました。

議員として10年以上在職
折坂 美鈴 議員



浦臼・奈井江町議会議員交流会

11月7日、奈井江町議会との交流会を行い、空知総合振興局産業振興部農務課長 齋藤暢浩氏から近年の農業情勢についての講演を聞き、その後意見交換を行いました。



浦臼町議会からのお知らせ

浦臼町議会では、今年4月に控える浦臼町議会議員改選にあたり、浦臼町の将来展望を見据えた議会改革の必要性を検討するため、平成28年1月から協議を重ねてきました。

より多くの意見を集めるべく、全町内会との懇談会を開催し、町政や議会に対する意見をいただきました。また、議会改革の先進地である十勝管内浦幌町議会、鹿追町議会への視察や、近隣町へのアンケートの実施、講演会、研修会等に参加するなど活動を進めてきました。その結果、改革内容が全員一致で合意され、12月定例会で条例改正がされましたので、内容についてお知らせいたします。

①常任委員会：速やかな事案共有と全議員の見識を深めるため、2つ（総務、農林建設）から1つに統合し、総務産業常任委員会とする。

②報酬：現在実施している報酬削減の継続はせず、元の報酬額に戻す。

議員報酬額 現在 16万5,000円 → 改選後 17万7,000円

③議員定数：小さな自治体ゆえに今後の町づくりに町民の多様な声が届く議会ししなければならないと考え、定数の削減は行わず、現行の9人とする。

町民の皆様のご理解、ご協力をお願いいたします。 浦臼町議会議員一同

常任委員会報告

総務常任委員会

〔調査日 10月30日〕

『郷土史料館の現状』

当館は本町の開拓に汗した先人達の歩みと、その足跡を後世に伝え残すものとして昭和54年に開館し、39年が経過している。29年度来館者数は1114人であった。

5847件、1万862点の展示資料を所有し、約3千点を展示している。特に、坂本直寛やその一族と本町との関わりなどについては特別コーナーを設けていて、展示内容は町文化財保存会、文化財保護委員会が検討している。

○史料館のコンセプトを定め、展示物を精査する必要がある。

○施設の耐震化や、空調環境の整備を検討してはどうか。

○貴重な文化財も所有していることから、バスツアーなどイベントの計画や、HPでの紹介など、町内外に知ってもらうことが必要。

農林建設常任委員会

〔調査日 11月8日〕

『今年の作況状況』

平成30年は記録的な大雪となり融雪の遅れが心配されたが、3月以降は好天に恵まれ順調に融雪が進み春耕期を迎えた。

本年の水稻の収量は、天候不順により莖数、穂数とも平年の90%にとどまり、更に整粒不足や品質の低下も見られ、タンパクも高い傾向となった。そのほか畑作や施設園芸でも天候不順の影響を受け、全てにおいて前年を大きく下回る結果となった。特にそばにおいては、前年比26・9%となり大打撃を受けた。

○天候不順に対する営農技術情報の発信の継続を。

○31年産に向けた営農技術情報の提供・指導を求める。

○そばの大幅な収量減に伴い産地交付金における反収の調整による適正交付を望む。

議会の流れ

◎議会運営委員会

12月5日
・平成30年第4回定例会の運営について

◎全員協議会

11月7日
・産業観光推進ブランドデザインについて

◎議員懇談会

12月11日
・第4回定例会について
・職員の給与に関する条例の一部を改正する条例について

◎議会広報特別委員会

12月20日
・ジビエdeそらちについて

◎議会だより第165号編集

1月17日
・議会だより第165号編集

委員長	柴田 典男
副委員長	中川 清美
委員	折坂 美鈴
	野崎 敬恭